

# 歴史教育者協議会第73回愛知 / 東海大会速報

## 3年ぶりの対面での大会を、2日間開催で行いました！

歴史教育者協議会大会委員会

### ●対面、2日間の開催に331人が参加

歴史教育者協議会第73回愛知 / 東海大会は、8月6日、7日の2日間の日程で、名古屋市南山高等学校・中学校（女子部）を会場に開催されました。大会テーマは、「いのち・平和・民主主義—地域に根ざし、未来を紡ぐ—」。コロナウイルス感染者が増加しているという状況でしたが、300人以上の方が参加し、対面での大会を無事に終えることができました。東海五県、会場校の皆様ありがとうございました。

初めての2日間開催となった大会となり、午前全体会、午後分科会、夜は地域に学ぶ集いで1日目を構成しました。全体会は、山田朗歴史教育者協議会委員長の基調提案と長野県歴教協の飯島春光さんの地域実践報告「君は満州へ行くか—中国残留日本人の孫たちと学んだ戦争と平和」でした。参加者の感想から、全体会の様子を紹介いたします。

### ●山田委員長の基調提案「歴史から学び、平和と民主主義を創造するために」 感想

▽ スタンドオフ防衛力、国葬、安倍思想など取り上げられたテーマはいずれも、今の歴史から考え、今を評価し、あるべき未来を考えるお話で、とても多くのことを学ぶことができました。 (60代 千葉)

▽ ウクライナでの戦争、元首相の殺害など、現憲法下で到底容認できないようなことが起こっていると同時に、それらをただ傍観するだけの自分にいら立ちを感じています。主権者を育む立場の人間として、受け止め方や発信方法に敏感にならなければなりません。そう認識させられました。



全体会地域実践報告 長野県歴教協・飯島春光さん

### ●飯島春光 地域実践報告「君は満州へ行くか—中国残留日本人の孫たちと学んだ戦争と平和」感想

▽ 「地域に根ざす」という歴教協のテーマに沿った非常にすばらしい実践でした。中国からの転入生が多い、満州への移民が多かったという学校や地域の特性を生かしていると思います。その背景には飯島さんの地道な地域調査、教材研究の賜物と思います。勤務校にも留学生が多く在籍しているので、

授業の参考にしたいです。(30代 東京)

- ▽ 自ら地域や学校の問題に目を向けて、その問題を学校全体で解決していこうとする取り組みに、心を打たれました。研究への熱は「何とかしたい」、「知りたいという」思いが大切だと思うので、私自身も、日頃から色々なことに目を向けていこうと思いました。具体的な研究と報告を聞くことができ、多くの学びを得ることができたので、今後の教員人生に生かしていきたい。

(20代 千葉)

- ▽ 飯島さんの実践の集大成、すばらしかったです。教育は人なり。こんな先生に教わりたい！みんなそう思うでしょう。私も残留孤児を祖先に持つ子どもたちを担任したことが何度かあります。保護者と深くお付き合いすることは少なかつたように思います。先生の人間の魅力が周りの人を動かし、中国からの人々の心を支え続けたことを尊く思います。(60代 千葉)

- ▽ 中国では日本人、日本では中国人と言われたことをどう克服したかの話と実践、胸がつまる。自分の中の中国を、平和教育を受けの中で克服し、さらに英語弁論で新たな地平を開くまでに成長した青年に感動した。

(60代 山形)

- ▽ 熱い報告に感情を揺さぶられた。無知故に暴言を繰り返す生徒が満蒙開拓の史実を知り、変わっていく様子に希望をみた。日本中の歴史を教える教員が、飯島さん同様に取り組んでくれたら、日中関係も変わるだろう。最後に登壇された生徒の一人が自身の尊厳を取り戻し、自信を持って未来を見据える姿を頼もしく思った。(60代 千葉)

## ●地域に学ぶ集いは10講座実施

地域に学ぶ集いは、現地東海五県(愛知・静岡・長野・岐阜・三重)が3年越しで準備

された7講座と本部が企画した3講座、計10講座が実施されました。参加者の感想を紹介します。

### 1 満蒙開拓青少年義勇軍と教育の責任

- ▽ 地元の長野で大量の義勇軍が満州に送られていることは知らなかった。開拓団と義勇軍の違いを学べた。長野県は日本で一番関東軍の駒になっていたのではないだろうか。個人的には、戦後になって教員が一人も辞めなかったのは驚きだった。やはり教員は責任が全く無かったのだろうか。私は何かしらの責任を取るべきだったと考える。

(20代 長野)

- ▽ 本日の全体会の地域実践とも関連しながら、満州移民が、具体的にどのようなものだったか。授業でどのように扱っていくべきか。考えることができました。(20代 東京)

### 2 満州黒川開拓団の悲劇をどう語り継ぐか

- ◇ 色々、黒川開拓団について学びましたが、改めて今日ビデオを見て、胸が苦しくなりました。黒川開拓団のことを語り継ぐことは、とても難しい問題ですが、当事者の方々と直接お会いして話を聞いた。このとても貴重な体験を生かして、多くの方に知って頂けるように考えていきたいと思いません。このような会などで、少しずつでも伝えていくことが大切だと思います。

(10代 埼玉)

- ◇ NHKをたまたま見て衝撃を受け、どこかで学習する機会があればと思って参加しました。直接お話を聴くことの大切さ、重さを実感しました。黒川のことは特別なことなのかかもしれないけれど、国策として進められた満蒙開拓のことは全国各地に事例があり、そのことも含めて、子どもたちと学んでいかないといけないと、改めて考えました。(50代 和歌山)

### 3 中国強制連行・強制労働と万人 (人捨て場)



万人坑から出た遺骨の写真

◇ 平頂山事件、華人労働者移入方針による劉連仁事件など、中学の授業で取り組んできました。万人坑の衝撃的な実態は、学者・研究者が取り組むべきことです。企業側の証言はないのでしょうか。これから学び続けたいと思います。(60代 東京)

◇ 大変わかりやすい報告で、知らなかった事実をたくさん知ることができました。このような事実は、ぜひ日本の教科書に書くべきだと思います。侵略戦争の実質を教える有効な教材になると思いました。

(60代 東京)

#### 4 次代に語り継ぐ四日市公害

▽ とても中身の多い問題ですが、まとめてお話頂き、ありがとうございます。問題のポイントや授業化について資料も用意して頂き、とても勉強になりました。

(40代 千葉)

▽ 四日市は修学旅行の行き先として計画していたことがあったので、興味深く聴きました。今回現地見学にはまいりませんが、環境未来館等訪れてみたいですし、修学旅行の行き先として、また検討したいと考えました。(30代 東京)

#### 5 災害碑が語り伝える命のメッセージ

▽ 災害碑に残されたメッセージの内容まで、目を向けたことがなかったので、非常に興味深い内容でした。そして思っていたよりも、いつの時代の碑でも似たようなこ

とを伝えていたと感じました。これはもしかしたら、伝承碑がうまく伝承されていないということで、そうであるならば、自分が教員として何ができるか、少し考えてみたくなりました。(20代 埼玉)

▽ 久しぶりに「新田節」が聞けると楽しみに来ました。地域をしっかりと歩き、1つ1つ地道に碑の調査をされる姿勢は、歴史教師のあり方の原点だと思います。「聞き取り調査も入れなければ、調査の意味がない」という先生のことばに、先生の真剣な研究に対する情熱を感じました。(60代 奈良)

#### 6 朝鮮通信使、尾張をゆく

▽ 朝鮮通信使を迎える側の対応をみていつも思うのは、隣国との交流とはこのような民衆レベルの交流が大切だということだ、福島の三春藩は東海道の舞坂、赤坂まで命じられて通信使の送迎に来ていたと思います。その際の経験や江戸詰め時に馬上才を見物するなどして、それを元に張り子人形のデザインが伝播したのではと考えています。(50代 福島)

▽ 尾張の人々に、通信使・琉球使節がどう受容されていたのかが、1番興味深かったです。(40代 千葉)



朝鮮通信使の資料説明

#### 7 黒羽清隆に学ぶ社会科授業づくり

▽ 黒羽先生については本でしか知らなかつ

ため、非常に勉強になった。子どもの視点からの授業という視座を得、早く授業をつくりたくてたまらない。その視点をどう生かすか、どう自分のものにするか、考えている。ありがとうございました。

(20代 神奈川)

- ▽ 「日本はなぜ東南海地震の報道を徹底規制したのだろうか」、「アメリカはなぜ東南海地震の報道を詳細につたえたのだろうか」、授業化の参考になります。(60代)

## 8 教科書問題

- ▽ 歴史総合の実践に悩んでいます。事例を開けて参考になりました。内容の精選をすることや、史資料の読み取りのやり方など参考にしたいです。(30代 京都)
- ▽ 探求科目は、知識事項(語句)をもっと削らないと理念の実現は厳しいと思います。歴教協で、この辺りの声明を出してもらえないか?と思います。(20代 京都)

## 9 日韓交流—新しい中学世界史の授業

- ▽ 大阪にある韓国学校で働いていたことがあるので、韓国の歴史教育の様子は(入試の動向も含めて)ある程度知ってはいたが、今の日本の中高の歴史教育で行われているカリキュラムや方法・内容と非常に似ていることがわかり、興味深かったです。(30代 岡山)

- ▽ 韓国の政界はけっして安定していません。



韓国とのオンライン

それにも関わらず、韓国の歴史教師が、自国史と世界史の有機的な結合を実現していることに敬意を表します。このことは、日韓の歴史の共有という点でも生きてくるものと思います。様々な機会に、日韓の歴史を学んでいきたいものです。(60代 宮城)

## 10 日中授業交流—南京での授業交流の発展をめざして

- ▽ オンラインではあったが、中国の教育者と意見交換ができ、参加して良かった。対面が一番ではあるが、交流を続けていくことが大切だと感じた。(30代 鹿児島)
- ▽ これほどの交流が続いているとは、全く知らず驚いた。中国の歴史教育が多角的な視点からの認識を目指すものになっていることを初めて知った。同様の試みをしてみたいと思っている。(愛知)



中国とのオンライン

## ● 22の分科会で131本のレポートを討議

2日間の大会となりましたが、分科会は1日目の午後、2日目の午前・午後と時間を確保し、「じっくり討論できた」との感想が寄せられました。対面での開催となり、「(分科会の) こういう“熱”って、やはりオンラインでは得られない。対面だからこそ思いました」との声もありました。

一方、コロナウィルスの感染拡大のため、報告者が参加できなくなった分科会では、世話人のご尽力でオンライン報告してもらうこ

とができました。

中学校の分科会は、ウクライナでの戦争について合同分科会を行い、討議しました。

各分科会の感想の一部を紹介します。

### 第1分科会 地域の掘りおこし

▽ 地域を取り上げるという点で、資料館・博物館・美術館と連携したという実践は魅力的に映った。博物館の図録を教材にした日本史探求の実践を、別の研修会で聴いたからである。どのように行えばいいのか詳しく知りたいなと思った。(50代 三重)

### 第2分科会 日本前近代

▽ 私自身の視点の少なさや知識のなさに驚くくらい教科レベルが高かったです。今回の報告で、出典や読まれている本を読んで、より良い実践を行っていきたいと思います。次回も参加したいです。(20代 東京)

### 第3分科会 日本近現代

▽ 2学期に3年生の「日本近現代史」で第二次世界大戦についてじっくり扱う予定です。生徒がWWⅡおよび十五年戦争で、歴史認識を獲得していくため、どのような史資料が効果的なのかを先生方の報告から認識・検討することができました。具体的な史資料のアイデアをこちらも考えたかったので、様々な考えることができて良かったです。

(20代 東京)

### 第4分科会 世界

▽ 普段は忙しくて、なかなか授業実践を落着いて勉強することがないので、大変貴重な機会となりました。忙しい日常の中で、すぐに手に入る資料を用いた授業づくりのヒントを頂きました。(40代 愛知)

### 第7分科会 現代の課題と教育

▽ 小学校の授業から市民運動まで、歴協協ならではの分科会で、大きな学びになりました。子どもたちの「社会を見る眼」をど



第5分科会 憲法と現代の社会—討論



第6分科会 思想・文化・文化活動—参加  
できなくなった報告者がオンラインで報告

う育てるかという視点を与えて頂きました。(学んだことを、これから消化することになります)吸収して、授業を考え、組み直してみたいと思います。(50代 北海道)

### 第8分科会 平和教育

▽ ウクライナ侵略戦争については、生徒は関心がとても高いです。ですが、なかなか教材として取り上げることはできなかったのも、大いに参考になりました。生徒が自主的に意見を言うということでしたが、生徒が意見を言いやすい雰囲気を作っているのだろうなと思いました。(40代 三重)

### 第9分科会 幼年・小学校低学年

▽ ウリハッキョでの実践は、とても子どもが自然体で、日本と朝鮮がこれからももっともっと交流が進んでいけばいいなと思いました。自然のおもしろさを表現した作品では、もっと子どもの思いを言語化させ、そ



れを記録させていくことの必要性も語られたことが、さすが歴教協と思いました。

(60代 静岡)

#### 第10分科会 小学校3・4年

▽ 子どもたちに自分ごととして社会科学習に向き合う工夫(地域の教材化)が大切なことを実感できた。パンプキン爆弾の調査で個々の記憶が結びついていく(つなげる努力)のが、今からは難しくなってくる(戦争体験の風化、継承の難しさ)と感じた。

(60代 鹿児島)

#### 第11・12分科会 小学校5・6年合同

▽ 教育委員会主催の研修会では、一方的に発表して「ありがとうございました」で終わってしまうことが多いことや、学習指導要領に沿っているかどうか等の指導が多い。今回、批判を頂いて、もう一度、作り直したいという意欲がわかりました。

(30代 福岡)

#### 第13分科会 地域の中の子どもたち

▽ 地域における子どもについて、様々な団体の視点から考えることができた。教育・福祉の両方から見ることで得られた知見も多い。子どもを取り巻く環境は常に変化しており、その中でどのように子どもと関わり、育ち、育てていくかを考えた。

(20代 愛知)

#### 第14分科会 中学校地理

▽ 中村哲さんをどう社会科(地理)の授業で学ぶかという思考錯誤を学びました。地理のみで扱うのは正直厳しいと思いますが「タネまき」してあえて深掘りしないというのも、手ではあるかと考えます。最終討論では、授業づくり・教材づくりへのヒントをたくさん頂きました。さらに勉強を重ねて、自分の授業を作り上げていきたいです。今回は貴重な会に参加させて頂き、あ

りがとうございました。(20代 埼玉)

#### 第15分科会 中学校歴史

▽ 「カレーなる歴史」の報告は、身近な食べ物から、社会的事象に切り込んでいくのが、とても面白いなと思いました。歴史だけでなく、地理・公民と結びつけていて、立体的で認識が深まるなと思いました。「第一次世界大戦と感染症」の報告は、生徒の思考を揺さぶる授業展開が面白いなと思いました。一度2~4択で生徒に問いかけ、起承転結の「転」を踏まえて、もう一度考えさせ、結びとする流れが物語風でわかりやすかったです。初めてですが、皆さんの意識の高さに感動しました。(20代 千葉)

#### 第16分科会 中学校公民

▽ 初めて参加したが、とても温かく迎え入れて下さって、嬉しく思った。内容についても講義形式かと思っていたが、質疑応答や討論の時間が濃密にとられていて、他の方々の意見もよく知ることができて良かった。教科書の文章に従うことにとらわれていたが、字面ではなく、何が重要なかを理解することが重要で、そのために教科書を使うということがわかった。(20代 北海道)



第17 高校分科会—討論

#### 第18分科会 大学

▽ 日清戦争に焦点をあてて近代史学習を始めていくとアジア太平洋戦争までの日本の植民地主義の動きを理解することができる

のではないかという実践に、納得することが多かった。フィクションまじりの映像も動画に慣れた世代には、教育効果も大きいことを学んだ。教職課程でどのように平和学習をテーマにした講義をつくっていくとよいか。講義の概要、学生のコメントから学ぶことができた。(60代 三重)

### 第19分科会 障がい児教育

▽ 現地見学で期待していた「上山田ホテル」への光明学校の学童疎開に関する映像が見られたのが良かったです。今の上山田と子どもたちが生活していた頃の上山田をつなげる良いものが見られました。(60代 神奈川)

### 第20分科会 父母市民の歴史学習

▽ 1945年敗戦当時の子どもたちの疎開先での手記や、その当時を思い出しての聞き取り、とても迫力がありました。非常に内容は興味深く、敗戦時の子どもたちの考えていたこと、反応が見られて、ぜひ読みたいと思う。(30代 長野)

### 第21分科会 社会科の学力と教育課程

▽ どのレポートも質が高く、勉強になった。問いの立て方、発問の仕方、テーマの見つけ方など、今後授業に取り組んでいくための多くのヒントを得た。(40代 愛知)

### 第22分科会 授業方法

▽ 子どもたちが自分の考え、想いを表現し、それを教材に生かす、それをもとに授業することで学びが深まっていくのだと改めて思いました。教師は子どもと共に歩んでいく(学び続けていく)存在だということを、この分科会に参加するといつも実感させられます。今年は実践報告でできませんでしたが「私も子どもと勉強しよう！」と力をもらえました。(三重)

●閉会集会 来年は兵庫でお会いしましょう  
閉会集会は、ライネルスホール(参加者か

ら「雰囲気が良い」との感想あり)で行われました。まず、会場校の南山高等学校・中学校女子部の濱口吉宏副校長から挨拶がありました。会場校に対しては、参加者の感想から「会場を心好くお貸し下さいました。2020年からの延期でご迷惑をお掛けしたと思います。無事終了しました。ありがとうございました。」「会場を提供して頂いた南山学園に感謝です。道案内などのボランティアをして下さった高校生の姿が新鮮でした。暑い中、荷物まで運んで頂いた」等と会場校への感謝が多く寄せられました。

続いて、ウクライナ問題で討議した中学校合同分科会と、歴史総合をとりあげた高校分科会からの報告がありました。「いずれもこれからの授業づくりにあたって、実践研究としても大切にしていかなければならない大切な視点です」、「どちらも、日本の“今”が反映」されたものです」との意見がありました。

その後、大会初参加の方、若い世代からの発言がありました。「初参加の方の発言にいろいろと励まされるようで、嬉しく思いました」、「若い人、初参加者の発言が良かった。自分の課題とかかわって、感想を述べていたのが、印象的でした」などの感想が寄せられました。

閉会集会全体の感想としては「相変わらず和やかな雰囲気の中での閉会集会ありがと



愛知 / 東海大会現地実行委員の皆さん

う]、「対面集会はやはり違います。とても力  
が湧いてきました」との声がありました。

こうして閉会集会も終わり、愛知・東海大  
会から来年の開催県、兵庫への引継ぎセレモ  
ニーとなりました。

まずは、会場校として準備に奔走された現  
地実行委員会の半沢里史事務局長が、実行委  
員会を代表して延期が続いたこの間の思いを  
語られ、東海ブロック5県の皆さんが壇上さ  
れました。

そしていよいよ来年度の開催県、兵庫県歴  
史協の皆さんが壇上に上がり、「来年度の大  
会は兵庫です。ぜひ、来年は兵庫でお会いし  
ましょう」と呼びかけ、愛知・東海大会は現  
地見学を残して終了しました。

## ●現地見学、全コース実施一大会ならではの 体験

大会終了後は、現地見学でした。東海プロ  
ック各県の皆さんが、3年越しで準備してき  
た6つのコースは、コロナウィルスの感染増  
加という状況でしたが、感染対策を行いなが  
ら実施し、無事終了することができました。

現地見学のコースは、全体会や地域に学ぶ  
つどいでの学習とつながるコースも多かった  
ので、参加者の学びは深いものになりました。

「やはり、現地見学はいいね」との感想が寄  
せられました。

3年越しのご準備、大会の運営、大会が終  
わるやいなやの現地見学と愛知・東海大会の  
実施に関わってくださった皆様ありがとうご  
ざいました。そして、来年は兵庫でお会い  
しましょう。



愛知 / 東海から兵庫への引継ぎ



来年はぜひ兵庫へ

